

文献紹介

ニコチン酸アミド内服は臓器移植患者の皮膚癌発症予防に有用か

ニコチン酸アミドは、紫外線曝露後の DNA 修復プロセスを促進し、DNA 損傷による紫外線誘発性免疫抑制を予防する。実際に第 III 相ランダム化比較試験 (ONTRAC 試験) でニコチン酸アミド内服によりケラチノサイト癌 (有棘細胞癌や基底細胞癌) および日光角化症の発症率を有意に減少させるという結果が示されている。臓器移植患者では免疫抑制剤の長期内服により皮膚癌発生率が健常人の 50 倍に増加するとされるが、臓器移植患者の皮膚癌発症予防にもニコチン酸アミド内服が有用かはいまだ不明である。

著者らはオーストラリアの複数の医療施設において、過去 5 年間に少なくとも 2 種のケラチノサイト癌を発症した臓器移植患者を 1 日 2 回 12 か月間ニコチン酸アミド 500 mg を投与する群とプラセボを投与する群の 2 群に無作為に割り付け、3 か月間隔で皮膚所見を 12 か月間フォローした。主要評価項目はケラチノサイト癌の新規発症数、副次的評価項目は有棘細胞癌および基底細胞癌の発症数、試験開始 6 か月後までの日光角化症の発症数、安全性、QOL とした。158 例が登録し、79 例がニコチン酸アミド群、79 例がプ

ラセボ群となった。

結果として、主要評価項目に有意な差はなかった (207 例 vs 210 例; RR 1.0, 95%CI 0.8~1.3, $p=0.96$)。また、各副次的評価項目においても同様に有意な差はなかった。この結果は ONTRAC 試験の結果と対照的であり、臓器移植患者に関しては皮膚癌発症予防に寄与しない結果となった。本試験のリミテーションとして、登録数が目標サンプル数 254 を下回ったことや登録 4 週間前まではニコチン酸アミドのサプリメント摂取を許容していたため集団の発癌リスクが低下していた可能性などが挙げられる。今後大規模なサンプル数を集めた国際共同研究などにより、ニコチン酸アミド内服によるケラチノサイト癌の発症予防効果の解明が望まれる。

Allen NC, et al : Nicotinamide for Skin-Cancer Chemoprevention in Transplant Recipients. *N Engl J Med* **388** : 804-812, 2023

(慶應義塾大学 園田 誉)